

特色

科学技術の進歩と医療の進歩は密接に関係しています。その中でも、超音波を用いた診断技術の進歩は眼を見張るものがあります。日常診療の中で超音波を用いた検査・処置・治療が不可欠となっています。超音波は体に無害であり、今後もさらに医療ニーズが増加すると予想されます。

このため当院では、効率よく検査業務を遂行し、同時に、超音波診療における教育・研修・新規技術開発・院内の超音波機器の集中管理・外部への広報などを強力に推し進めるために、従来の検査部生理検査課における超音波部門と消化器内科超音波診療課を平成27年4月1日に統合し、「超音波診療センター」を創設しました。

センターでは、

- ①効率のいい超音波検査業務の遂行
- ②病院職員・学生等に対する教育・研修
- ③超音波機器の集中管理
- ④新規技術の開発と外部への広報

を業務の柱としています。具体的には、

- ①効率よく超音波検査業務を行なうため、最初はセンターの構成員の人数を絞ってスタートして、上記のように検査業務は検査部生理検査課に所属する技師が兼任して業務に当たっています。
- ②教育・研修：当院の研修医・学生に対して研修プログラムを作成して研修を行っています。初期研修医のなかで希望するものには1週間の集中研修を行っています。

③超音波機器の集中管理：当院は院内に50台の超音波機器があります。この中にはブラウン管時代のものから最新の機器まで入り混じっています。これらを整理して、臨床医が効率よくかつ便利に使用できるように管理するだけでなく、インфекションコントロールチーム(ICT)と協力して、機器を介した接触感染予防方法の確立や啓発を行っています。

④さらに今後は安全な血管穿刺や高度な造影技術の進歩に追従し、院内への教育と外部に広報していく予定です。

なお、放射線科医により行われている侵襲を伴う超音波検査は左記のセンターの業務には含まれていません。

対象疾患 (超音波検査が特に有用である疾患)

腹部領域

- 脂肪肝
- 肝のう胞
- 胆嚢結石症
- 胆嚢ポリープ
- 腎結石

循環器領域

- 弁膜疾患
- 虚血性心疾患
- 心筋症
- 頸動脈、大動脈疾患
- 四肢血管

体表領域

- 乳腺、甲状腺など

- 血液内 ①
- 腫瘍内 ②
- 腎臓内 ③
- 内分泌 ④
- 消化内 ⑤
- 循環器 ⑥
- 脳神内 ⑦
- 呼吸内 ⑧
- 感染症 ⑨
- 精神 ⑩
- 小児 ⑪
- 小児外 ⑫
- 消化外 ⑬
- 胸乳外 ⑭
- 脳神外 ⑮
- 心臓外 ⑯
- 整形外 ⑰
- リハ ⑱
- 皮膚 ⑲
- 形成外 ⑳
- 泌尿器 ㉑
- 腎外 ㉒
- 産婦人 ㉓
- 眼科 ㉔
- 耳鼻 ㉕
- 化学療 ㉖
- 放診断 ㉗
- 放治療 ㉘
- 放核医 ㉙
- 麻酔 ㉚
- 歯科 ㉛
- 救急 ㉜
- 心不全 ㉝
- がんゲ ㉞
- 健診 ㉟
- 病理 ㊱
- 薬剤 ㊲
- 検査 ㊳
- 超音波 ●**
- 臨床工 ㊴
- 看護 ㊵
- 血管治療 ㊶
- 消化器 ㊷
- 呼吸器 ㊸
- 生殖医療 ㊹
- 腎臓病 ㊺
- ロボット ㊻
- 女性外来 ㊼
- 緩和 ㊽
- 下肢 ㊾
- 呼吸ケア ㊿
- NST ㉀
- 認知症 ㉁
- 褥瘡 ㉂
- RRT ㉃
- 転倒予防 ㉄
- 内科専 ㉅
- 外科専 ㉆

診療実績

(2021年度)

項目	件数
腹部	
外来	3,842
入院	1,371
腹部(ドック)	2,653
乳腺	1,698
甲状腺など(乳腺以外の表在)	2,881
穿刺・治療	132
心臓	
外来	5,312
入院	3,148
経食道	259
血管	
外来	2,986
入院	1,765
合計件数	26,047

地域の先生方へ

当院では、スタッフだけでなく特に腹部領域の機器として主要会社の最上位機種を全て揃えており、超音波診療に威力を発揮できる環境です。現在は行っていませんが、将来は機器利用としての超音波

検査依頼も受け付ける予定であり、先生方の診療の一助になるべく尽力いたす所存です。

